

## 、 インナの母親 リディヤさんからのメッセージ 、

日本のみなさん、こんにちは。私は、リディヤ・アレクサンドロヴナ・コヴァリといいます。チェルノブイリ原発事故による被害を受け、今回日本を訪れているインナの母親です。チェルノブイリの事故の後、私たちの家族がどのように暮らしてきたのか、原発事故によって、どんな影響を受けてきたのか、同じく原発事故の被害に苦しむ日本の皆さんが、この問題を考える手がかりになればと思い、私個人の経験からお話したいと思います。

チェルノブイリ原発事故の当時から、私たちはキエフに住んでいました。事故の起きる直前の1986年4月23日に、インナは扁桃腺の手術を受けました。5月1日、人々はメーデーのデモ行進に参加していました。私と子どもたちは、公園へ散歩に出かけました。春たけなわで、あたりは緑に覆われていました。スープに入れようと思い、イラクサの若葉を摘んで集めました。そのとき、葉っぱが灰色の埃をかぶっていることに気付きました。でも、それが危険なものだとも思わず、洗って、そのまま煮込みました。もしかしたら、妹のヴィーカは、まだ小さかったので、そのスープは口にしなかったかもしれません。その頃、町では強い風が吹いていました。くるくると渦を巻くような風でした。埃や砂があたり一面に飛び交い、私たちはそれを吸いこみました。子どもたちは外に出て、公園で砂遊びをしていました。事故についての情報、その恐ろしい影響についての情報は、長い間隠されていました。仕事もあって、私たちがキエフから別の町に避難したのは事故から一か月後、一か月間だけでした。どのように自分を守ったらよいのか、どのような予防法があるのかについて、マスコミも何も知らせてはくれませんでした。当時はインターネットなどありませんでしたので、人々はどのようにしてよいのか、自分や、子どもたちをどのように守ったらよいのか知らず、病気の兆候もわからず、健康に影響があることなど、想像することもできなかったのです。

甲状腺の手術を受ける前から、インナは体が弱く、よく風邪をひき、頻繁に鼻血を出していました。それから、歯がもろくなっていました。それで、病院に行くことが多かったのですが、しかしどの医師も、内分泌の専門医を受診しなさいとは言いませんでした。たまたまある人が、インナを内分泌の専門家に連れて行ったほうがよいと忠告してくれて、甲状腺の検査を受けたところ、すぐに手術が必要だとわかり、甲状腺を全部切除しました。どうしてインナは病気になり、妹のヴィーカは病気になっていないのかは、わかりません。もしかしたら、その時ちょうどインナは免疫が下がっていて、そのために放射能の影響をより強く受けてしまったのかもしれませんが。あるいはインナは砂場で遊ぶのが好きで、ヴィーカはそうではなかった、ということも関係あるかもしれません。当時の、そんないろいろな小さな出来事が、その後の人生に大きな影響を与えてしまったのかもしれませんが。今となつては、はっきりとしたことは言えませんが。インナの手術後、ヴィーカも検査を受けました。彼女は甲状腺が肥大していて、甲状腺機能障害と診断されました。でもその時医師はこう言いました。「これは、チェルノブイリ事故が起きた後のウクライナでは、普通です」と。

国に対しては特別な要求をしたことはありません。ただインナが国から障害者年金をもらうため、病気がチェルノブイリ事故と関連があることを示す証明書を得るだけで、何年もかかりました。今インナは、一月100ドルの年金を受けていて、市内の公共交通が無料です。さらに、毎年でないにしても、2年に一度、21日間のサナトリウムでの保養を申し込むことができます。しかし、チェルノブイリの被災者への補償は年々少なくなっていて、まもなくそれは全くなってしまうでしょう。甲状腺の手術後、今度は1ヶ月間の放射線照射による治療が始まりました。しかし、治療の2週間目で、インナは肌に血の気が全くなり、まるで白い画用紙のような顔色になりました。くちびるも白くて、ほんの1点のピンク色が残っただけでした。とても体が弱っていて、頻繁に失神しました。心配になった私は自分でインナを検査室へ連れ出し、必要と思う検査を、自分で頼んでお金を払って受けさせました。インナが弱り切って真っ青になったとき、白血球の値が極端に下がっていました。私は治療を続けることを拒み、自分の責任で病院から退院させました。まだ半分しか治療が終わってなくて、がんの転移があるかもしれませんよ、と医師たちは言いました。ウクライナでは医師たちは、甲状腺の治療を次のように提案しています。最初に手術、次に放射線照射治療、抗がん剤治療、

または放射性ヨウ素を使った治療です。インナの場合は、甲状腺髄様がんであり、甲状腺がんの中でもまれなタイプでした。このタイプの患者の放射性ヨウ素はとても高額です。1回に1,500ドルです。私には、これは治療ではなく、人の命を縮めるために、放射能をさらに加えているとしか思えませんでした。それほど見るに堪えない治療でした。

それからさらに年月が過ぎ、今から6年ほど前にインナは結婚して、妊娠しました。インナが妊娠していると知ったとき、もちろん私は喜びました。でもそれは私たちにとって大きな試練となりました。病気の再発の恐れがあることを知ると、医者たちはみな、中絶して、再び照射治療を受けるようにと言いました。相談さえも拒まれ、病院での妊婦としての登録も拒まれ、中絶するように言われていました。しかし、彼女の、子どもを産みたいという気持ちは、とても強かったのです。私は、心配で丸1か月以上、殆ど眠れず、殆ど食べ物も喉を通りませんでした。でも娘を助けるためにこれではダメだと思い直して、食べるようにしました。そして私は民間療法の本をたくさん読み、試してみました。インナにある民間療法を始めさせると、腫瘍マーカーのカルシトニンの値が半分に減りました。このおかげで無事に出産できたのかもしれませんが。神様に私たちの祈りが通じたのか、やっとこの世にインナの娘、つまり私の孫のマリアンナが誕生しました。

最近では、多くの病気が明らかに若年化しています。以前だったら、病人の多くは年配の人たちでしたが、今は若い世代に多く見られます。そして、若い人たちは、私たちの世代が若かった時に比べて、とても体が弱くなっています。彼らは骨や関節の問題に、より悩まされています。全住民、とくに子どもたちへの、国のレベルでの医学的検査を毎年行うことが、必ず必要だと思います。残念ながら、ウクライナでは、子どもに対して全国レベルでの甲状腺の必須検査という体制がありません。

原子力、それは人間にとって毒であり、それに対する解毒剤は、残念ながらみつかりません。放射能は周りの環境から、汚染された食べ物などから体に入り込み、蓄積されていきます。たくさん放射能をためてしまった人は、病気になり、早く命を落とします。人々に安全の補償がないまま、どうして原子力発電所をつくることができるのでしょうか。がんの治療も、放射能による病気の治療もまだ見つからないというのに。現代医学のすすめる「治療」というのは、必ずしも人々が望むような結果はもたらさず、それでいて、高額な治療費がかかります。たとえ平和目的であっても、原子力を使ってはならないと、私は確信しています。ウクライナはたくさん原発を造り、ヨーロッパにきれいな電気を売っています。一方で、私たちには放射能、病気、放射能のゴミによって汚染された土地が残っています。原発で働く人々は、病気になったり、命を落とすかもしれないという危険の中で働いていて、一方で、他の人々はこれによって安易に電力を得ている。こんなことがあってよいのでしょうか。放射能汚染の影響によって失われる命、人間の生活の価値について、誰も考えていなかったのです。あるいは、多くの人々が、病気になって、治療のために高額な費用を支払わなければならないとは、誰も言いませんでした。そして、生まれたばかりの赤ん坊にまで、すでに深刻な原子力の負担を背負わせ、死ぬまでその不安を持ち続けなければならない、このような子どもの命の大切さについて、誰も考えなかったのです。この世界で一番大切なのは、人間であるということ、特に子どもたちであるということ、人々に理解してほしいと強く願います。未来の世代にどのような地球を残すのか、私たちの祖先が残してくれたようなきれいな地球を残すのか、あるいは、何百年も何も植えることもできない、有害で汚染された地球を残すのか、私たちは考える必要があります。みなさん、どうか自分たちを守ってください。自分たちの豊かで美しい大地を守ってください。みなさんは知恵のある人々です。科学のあらゆる分野で、未来への新しい道を大きく切り拓くことが出来るはずだと思います。

みなさんが原子力の問題について正しい選択をしてくれると信じています。どうか自分たちを、そして将来の世代を守ってください。どうかお願いします。